

小学生の咀嚼能力が身体・運動機能の成長へ与える影響に関する研究

1. 研究の対象

2023年度に大阪市において小学校4年次の身体測定および歯科健診を受けられた方

2. 研究目的・方法

【目的】

口の機能の中でも、特に咀嚼能力（食べ物をしっかり噛む力）は身体の発育において重要な項目とされています。現代では、加工食品の増加などによる軟食化が進むことで、学童期における咀嚼能力の発達を阻害する可能性が指摘されております。学童期において咀嚼能力が十分に発達しない場合、身体の発育に悪影響を及ぼす危険性が考えられます。そこで本研究は、学童期における咀嚼能力と身体・運動機能との関係を明らかにすることを目的としています。

【方法】

大阪市内にて2023年度に小学校4年次の身体測定および歯科健診を受けられた方を対象に、1年後（5年生、2024年度）および2年後（6年生、2025年度）を含めた計3回のデータを利用し、歯の状態や咀嚼能力の変化が身体・運動機能にどのような影響を及ぼすのかについて解析します。

【研究期間】

2023年4月～2027年3月

3. 研究に用いる試料・情報の種類

【情報】

- ①咀嚼能力（キシリトール咀嚼チェックガム）
- ②歯科健診データ（歯の数、歯ぐきの状態、咬み合わせの状態など）
- ③身体測定データ（身長、体重、運動テストの結果など）
- ④食習慣、生活習慣（食事の様子、歯磨き頻度などについてのアンケート）

【利用する者の範囲】

研究責任者：池邊一典

（大阪大学大学院歯学研究科 有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座 教授）

研究分担者：高阪貴之

（大阪大学大学院歯学研究科 有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座 助教）

來田百代

（大阪大学大学院歯学研究科 有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座

招聘教員）

仲野和彦
(大阪大学大学院歯学研究科 小児歯科学講座 教授)
大繼將寿
(大阪大学大学院歯学研究科 小児歯科学講座 助教)

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、
研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出
ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

大阪府吹田市山田丘 1-8

大阪大学大学院歯学研究科 有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座 高阪貴之

TEL：06-6879-2954

研究責任者：

大阪大学大学院歯学研究科 有床義歯補綴学・高齢者歯科学講座 池邊一典